

令和5年度 学校評価表(計画・**中間**・最終)

【5月末・7月末・2月末】

a 学校教育目標		自ら学び、共に伸びる		b 経営理念 ミッション・ビジョン		ふるさとを愛し、愛される熊一小～ひととの関わりの中で育つ～					
評価計画(5月末提出)						自己評価				n改善方策	
c 中期経営目標 (3年後を見据えて)	d 短期経営目標 (今年度)	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	h達成値	h達成値	j評価 A～D 4段階 評価	k結果と課題の説明 (短期経営目標についての評価結果)	7月	2月	
					7月	2月					
生きる力の育成	主体的に学び、人と関わりながら成長する力を育成する。	自分に合った表現方法で思いや考えを伝える力の育成(自分の考えを表現する力)	○仲間や地域と協働しながら主体的・探究的に学ぶ授業の改善を行う。 ・課題解決に向けて、自ら考え、取り組める探究活動や体験活動の充実。 ・話し合い、調べ、まとめ、表現する活動の場の設定。	教職員、児童への意識調査の肯定的な評価の割合	85%	教員 ⑤ 96% 児童 ⑤ 85%	A	地域人材との連携や熊野東防災交流センター等の地域施設見学を重視した教育活動を展開したことで主体的な学びが充実してきている。	コミュニティスクールの取組を更に充実させ、地域と協働しながら探究活動を充実させていく。		
			○個に応じた学びを工夫し基礎・基本の学力の定着を図る。 ・常タイムやICTを活用し個に応じた学習が進められるような場や学習内容の充実。 ・形成的評価を生かし個々の学習状況を把握した授業づくり。	標準学力調査の校内と全国の平均正答率の比較割合	全国平均比 110%	教員 ① 96% 児童 ① 91%		少人数指導やがん熊タイム(常タイム)、くまチャレ(放課後個別学習)、ICTを活用した学習等、個に応じた指導を重視した時間を有効に活用したことで、基礎的な力が付いてきている。	1月の標準学力調査に向けて、形成的評価を生かし個々の学習状況を把握した授業づくりを進める。		
			○多様性を認め合い自己肯定感が高まる学校づくりを進める。 ・児童の相談への丁寧な聞き取りと早期対応。 ・児童一人一人の良さが認め合えるような学級づくりの充実。 ・学年や学校全体で児童への共通理解を図り、組織的に対応する体制づくり。	教職員、児童への意識調査の肯定的な評価の割合	85%	教員 ⑥ 96% 児童 ⑥ 91%		SOSボタンやアンケートをもとにじめの早期発見につとめ、子供たち一人一人を大切にしたい個別面談を行うとともに、職員会議の中で配慮を要する児童について共通理解を図る時間を設け組織的な生徒指導を充実させた。	児童一人一人の良さが認め合えるような学級づくりの充実に向けて、職員研修を行う。		
強い職員づくり、児童、保護者、地域の	ふるさとを愛し、愛される学校を築く。	コミュニティスクールとしての取組の充実を図る。	○学校を支えてくださる地域・保護者の方々の組織「コミュニティスクールサポーター」を活用した教育活動を充実させる。 ・地域の「もの・ひと・こと」を生かした学習活動の新たな設定。	保護者、児童への意識調査の肯定的な評価の割合	85%	保護 ③ 88% 児童 ⑦ 91%	A	「総合的な学習の時間で第一小学校の歴史を勉強したことが、とても楽しかったようだ。」「熊野に住んで数か月だが、熊野のことをたくさん家で話してくれる。以前に住んでいたところでは『ふるさと』という感覚がなかったのが、熊野が子供にとっての『ふるさと』になればいいなと思っている。」という保護者の言葉があった。ふるさとを愛する子供たちが育っていると感じる。	学校を支えてくださる地域・保護者の方々の組織「コミュニティスクールサポーター」を活用した教育活動を充実させる。		

j評価 A～D 4段階評価

A:100≤(目標達成) B:80≤(ほぼ達成)<100 C:60≤(もう少し)<80 D:(できていない)<60